

教師と生徒の対話につながる，中学校英語教員と生徒の関係性の基礎調査

関根ハンナ（早稲田大学）・保崎則雄（早稲田大学）

概要：本研究では，ICT時代の教師と生徒の効果的な対話の重要性に注目して質問紙調査を行った。具体的には，中学校英語教員の姿が生徒の英語の好き嫌いに与える影響について尋ねた。質問紙調査の分析の結果，①生徒の「教員への好意」が「英語の好き嫌い」に影響を与えていること，②中学校英語教員に3つの資質「人柄・雰囲気」「英語を教える技術」「オーセンティックな英語」が求められていることが明らかとなった。これらの結果からICT活用で創造する「主体的・対話的で深い学び」には，教師のICT活用力以前に，ICTを使う教師自身の姿（人間性・知識・技術）がどのように学習に影響を与えるのかということを再考することの重要性が示された。

キーワード：中学校英語教員，教員の資質，理想の英語教員像，対話の重要性

1 はじめに

グローバル化に伴い英語の必要価値が高くなっている事象に反して，英語が嫌いな中学生が絶えない問題がある。これまで，学校における英語教育の研究は多数行われてきた。しかし，それらの研究では，英語教員の姿（性格や態度）と生徒の英語の好き嫌いの関係については明らかにされてこなかった。そこで本研究では，異なる中学校の出身者に質問紙調査を実施し，中学校英語教員の姿が，生徒の英語の好き嫌いに与える影響について検討することを目的とした。また本研究では，中学校英語教員に半構造化面接を行い，上記観点に関する生徒の考えと教員の考えの一致度合いを検証した。

2 研究の方法

（1）生徒側への質問紙調査

質問紙調査は，大学生54名を対象に，中学時代の英語教員を振り返る形式で行った。質問紙は，フェイス項目7問，本研究で開発した「中学校英語教員への満足感尺度」の項目17問，前田ら（2008）によって開発された「教師に関する信頼感尺度」の項目31問，自由記述項目2問で構成した。

（2）教員側への半構造化面接

半構造化面接は，「良い先生」と言われている現職の中学校英語教員2名（教師歴41年・10年）を対象に行った。半構造化面接は，「よい英語教師」とはどのような教師かについて，1）知識，2）技術・スキル，3）パーソナリティ，4）その他の4観点から尋ねた。

3 結果

（1）生徒側への質問紙調査

【量的分析】中学校英語教員への満足感尺度について，最尤法による探索的因子分析を行った結果，4因子構造であること示された。そこで，各因子を「I先生への好意」（ $\alpha=.92$ ），「II先生からのポジティブフィードバック」（ $\alpha=.68$ ），「III先生のかっこよさ」（ $\alpha=.74$ ），「IV先生への恐怖」（ $\alpha=.67$ ）と命名した。フェイス項目ごとに下位尺度得点の差を比較したところ，回答者の英語の好き嫌いについて，「I先生への好意」の下位尺度得点の差に有意傾向が見られた（ $F(2, 51)=2.85, p<.10$ ）（図1）。

さらに中学校英語教員への満足感尺度の4つの下位尺度得点を説明変数とし，英語の好き嫌い度合いを目的変数とした重回帰分析により，

「Ⅰ先生への好意」に有意な正の回帰係数($\beta = .569, p < .01$), 「Ⅲ先生のかっこよさ」に有意な負の回帰係数($\beta = -.315, p < .05$)が示された。

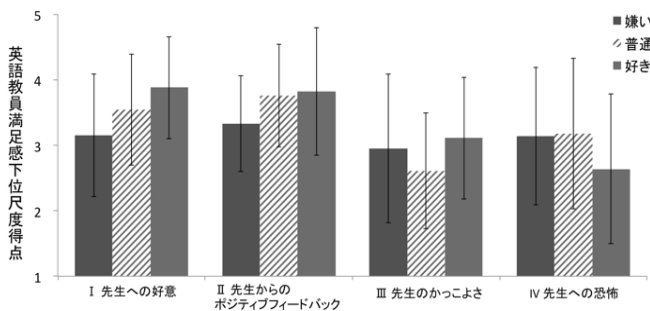


図1 生徒の英語の好き嫌いとう英語教員満足感の関係

【質的分析】自由記述項目では、理想の英語教員像について尋ねた。回答を KJ 法によって分類してまとめた結果、理想の英語教員像の構成要素として3つの大表札「①人柄・雰囲気」、「②英語を教える技術」、「③オーセンティックな英語」が存在することが明らかとなった(図2)。

① 人柄・雰囲気			② 英語を教える技術	
先生の人柄	授業の雰囲気	やる気を上げてくれる	レベルの適切さ	知識・能力・技術
<ul style="list-style-type: none"> 生徒を理解(4) ひいきをしない(2) 誠実(2)、優しい 明るい(2) ポジティブ 面白い、友人感覚 格好良い 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい(3) 面白い(2) 飽きない 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を好きにしてくれる(3) 先生が楽しそう 英語の楽しさを教えてくれる(3) 学びたいと思わせてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎から指導(3) 発展内容指導(3) 学習到達度を理解 難易度が適切 	<ul style="list-style-type: none"> 解説技術(6) (丁寧/わかりやすい) 英語の専門性(3) (英語力/英語・英米文学の専門知識) 頭に残る授業
③ オーセンティックな英語				
実用英語	英語圏文化	海外経験	ネイティブ外国人	発音
<ul style="list-style-type: none"> スピーキングに力を入れる(4) 将来実用できる英語を指導 言語としての英語を指導 ディスカッションに力を入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏文化の正しい知識を持っている 英語圏文化を指導 日本との文化の違いを指導 英語圏の文化や習慣を教科書と関連付けて指導 	<ul style="list-style-type: none"> 長期留学で海外を体感 海外経験から、海外のことを多く話してくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ネイティブ(2) 外国人 	<ul style="list-style-type: none"> 発音がきれい(3) 正しい発音指導(2) 流暢な英語を話す できればネイティブ、そうでなくても発音の良い先生

図2 生徒側が抱く理想の英語教員像

(2) 英語教員側への半構造化面接

英語教員への半構造化面接を行なったところ、質問紙調査の結果は英語教員に概ね支持された。また「良い先生」に共通する3項目が新たに示唆された。第一に、学校には様々な人柄の先生がいるべきであるが、良い教師は共通して一人一人の生徒をよく理解し、肩の力を抜いて生徒との信頼関係を築いていることである。第二に、生徒が英語嫌いにならないように、特に中学1

年時はわかりやすく・楽しく・身につくような実践を帯活動などによって繰り返すことの重要性である。第三に、教科書にはないユニークな刺激を教師が生徒に与えられるように、日常生活から様々な方面にアンテナを張り、見聞きしたことを生徒と共有することである。

また、生徒側が理想とした英語教員の発音の流暢さに関して、英語教員からは「ALT との役割分担をして、英語教員は発音が流暢であることよりも、相手に伝わるコミュニケーションがとれることを重視すべきではないか」という意見が出た。

4 総合考察

生徒側への質問紙調査により、英語教員に好意を持っている生徒ほど英語が好きである傾向が示唆された。また、英語教員の姿や発音の流暢さが格好よいと思っている生徒ほど英語が嫌いである傾向が示唆された。さらに、生徒が求める理想の英語教員像として、3つの資質「①人柄・雰囲気」「②英語を教える技術」「③オーセンティックな英語」が英語教員に求められることが示唆された。

英語教員側へのインタビュー調査により、「良い先生」と評価される英語教員は、生徒のことを理解して信頼関係を築き、教科書にはない刺激を生徒に与え、生徒を英語嫌いにさせない工夫をしていることが明らかとなった。

以上から、ICT活用で創造する「主体的・対話的で深い学び」には、教師のICT活用力以前に、ICTを使う教師自身の姿(人間性・知識・技術)がどのように学習に影響を与えるのかということの再考することの重要性が示された。

参考文献

前田健一・佐久間愛恵・新見直子(2008). 中学生の教師信頼感・友人信頼感と学校適応感の関連 広島大学心理学研究, 8, 53-66.